

令和6年度 堺看護専門学校における自己点検、自己評価 報告

1. 目的 本校の教育活動その他学校運営状況について、自己点検・自己評価を行うことにより改善点を明らかにし、教育水準の維持、向上を図るために実施する。
2. 自己評価・自己点検の方法
 - 1) 堺看護専門学校自己点検・自己評価規定に基づき、評価を実施する。その結果を分析し改善点を明らかにする。



カテゴリー	評価 (昨年)	評価・課題
I. 教育理念・目的	2.7 (2.8)	本校設置主体である堺市医師会の方針に基づき、地域の医療ニーズの貢献できる看護師を育成することを理念として謳っている。第1学科は新カリキュラム導入4年目、第2学科は3年目であるが、教員の認識の定着および便覧等での学生への明示もできている。学生が実際に指針として活用できているかの動機付けが課題となる。
II. 教育目標	2.7 (2.8)	本校の教育理念・ディプロマポリシーの一貫性はあり、設定した教育内容を網羅できている。学生の到達度の評価結果はある程度到達できている結果であった。
III. 教育課程経営	2.5 (2.5)	卒業時の学生からの評価等に基づき、科目、単元の再構成は行っている。カリキュラムとの配列は概ね維持されている。実習と学内業務が重なり教員が多忙な状況は改善が必要である。次年度より領域担当を整備していき、専門性が発揮できる教育環境を整えていく。
IV. 教育・学習・評価過程	2.5 (2.6)	カリキュラムの整合性は保たれているが、科目間の重複確認が不十分である。教育目標の評価は各教員に依存し多様性には欠ける点があるが、評価結果を用いて授業方法の変更や、教員間での協力体制は意識できている。
V. 経営・管理過程	2.4 (2.5)	2年課程が3月で閉科し、1課程となり新体制の準備が進んでいる。教員、事務職等が協働できる環境を整えていく必要がある。新入生は昨年度よりは増加したが財政基盤の厳しさは課題である。しかし、学生の学習環境の充実は学生の意見を取り入れながら行っていく。
VI. 入学	2.3 (2.2)	今年度で最後の入学試験となる。前年度より入学生の確保はできた。理念に基づいた選抜姿勢は維持したが、少子化による全入学状態で、入学者選抜による質担保が課題である。
VII. 卒業・就業・進学	2.4 (2.4)	第1学科は今年度よりホームカミングデーを実施し、卒業生の評価を行っている。第2学科は卒業生へ郵送での調査を行っている。卒業生へのアンケート調査までは行えているが、就業先との連携までは行えておらず、卒業生が現場でどう評価されているかの把握が未着手である。国家試験対策は計画的に行っており、第1学科は95%、第2学科は100%の合格率であった。
VIII. 地域社会・国際交流	2.2 (2.2)	地域の方を招く地域交流会や地域清掃などの活動は継続している。地域ニーズを把握し学校組織として還元する仕組みが弱い。
IX. 研究	1.8 (2.2)	講義の工夫、カリキュラム評価についての学内での研究発表は行った。しかし、時間的・財政的余裕がなく、研究活動の保障が最も低い現状がある。